



SPACE No.36

日本臨床心理身体運動学会会報第 36 号 2020 年 11 月 30 日

編集発行 日本臨床心理身体運動学会 会長 山中康裕

【第 1 回臨床心理身体運動学・学際的研究フォーラム（第 21 回大会）】

第 1 回臨床心理身体運動学・学際的研究フォーラム（第 21 回大会）を終えて

東京都児童相談センター 茂 晃久

2018 年 12 月 8 日、9 日に、立命館大学にて行われました。日本有数の観光名所ということに加え大学の立地的にも、ご参加される際は様々なご不便があったと思います。そのような中、たくさんの方にご参加いただき嬉しく思います。山本昌輝実行委員長に代わり、大変共縮ですがお礼のご挨拶をさせていただきます。本当にありがとうございました。

京都で行われるのは 1988 年の第一回大会以来になるようです。山本実行委員長が大会企画当初の案内で「記念大会」とおっしゃられていました。今回は会員の皆様には、大変ご心配とご混乱があったと思いますが、山本実行委員長が 21 回大会という、20 回記念大会から記念すべき第一歩（臨床心理身体運動学・学際的研究フォーラムとしては、まさに第一回記念大会）として、これまでの大会とは違ったスタイルをご提示されました。そして、それが京都の地で起きたということをお偶然と思えないのは私だけでしょうか。

さて、今大会の企画ですが、前大会開催時から山本実行委員長とどのような大会にするのかお話を聞かせて頂いておりました。それは、これまで本学会は心理臨床に軸足を置かれていたように感じるので、「身体」を冠した学会であることに立ち戻り、今一度「身体」に重心を乗せてみてはどうか、というお話でした。そのお言葉通り、すべてのワークショップの題に「身体」という言葉が入りました。そして、「身体」というテーマの締めくくり、そして大会の締めくくりとしてとして、また今回の目玉である、「身体」を知り尽くした小山裕史先生（株式会社ワールドウィングエンタープライズ代表・B.M.L.T 生命医科学研究所所長）に基調講演をお願いしました。ご著名でご多用な小山先生ですが、快諾して下さり今回の基調講演が実現しました。本当にありがたく、嬉しく思います。小山先生に基調講演をお願いするにあたり、講演内容を事前にご相談させて頂くため、大会前に山本実行委員長と私とで小山先生の本拠地であるワールドウィング（鳥取）に貴重なお時間を頂戴し、訪鳥しました。そこでは、運動が苦手という（実際に動きをみていると苦手ということがわかりましたが(笑)) 山本実行委員長は B.M.L.T.カムマシン®トレーニン

グを体験されて効果を実感されていました。また、B.M.L.Tについて、スタッフの方や小山先生から実際にご講義頂き、本当に貴重な機会となりました。訪鳥して一番感じたことは、小山先生をはじめスタッフの方のお気遣いです。施設の案内はもちろん、昼食や夕食までお気遣い頂きました。また多用を極める小山先生は夕食をご一緒できなかったのですが、お気持ちとして高機能シューズ BeMoLo（ビモロ）を頂戴しました。それは今でも私と山本実行委員長との宝物で、大事に愛用させて頂いております。小山先生のお気遣いは理論やマシンの緻密さにも表れていると実感しました。またそれだけでなく、それはスタッフの方々にも伝わっており、ワールドウィング全体が暖かい雰囲気にも包まれていました。マシンによる効果もあるはずですが、ワールドウィングは老若男女問わず、大浴場のように様々で多様な方が利用されており、小山先生という人、そしてその人が提唱されている理論、そしてその理論や想いを引き継ぐスタッフの方々が集まる空間自体に、身体の癒しの効果があるのだと感じました。実際の基調講演では時間の関係で小山先生の理論や研究成果の一部しか拝聴できませんでしたが、これからも研究は進み、多くの方がそれに触れ、癒されていくことと確信しております。先生の益々のご活躍を心より楽しみにしております。

最後に、講師の先生方、発表者の先生方、指定討論や座長の役を担って頂いた先生方、ご参加いただいた先生方、大会の運営にお力を貸していただきました方々、表においても裏においても本大会にご尽力頂いた先生方、誠に有難うございました。そして、山本実行委員長、大会開催に際して初動負荷ならぬ、初動から負荷が生じていたように傍でお手伝いさせて頂くなかで、感じておりました。本当にご苦労様でございました。

新潟で行われる次期学会大会が、多くの会員の方のご参加により実り多いものとなることを心より祈念いたしております。

第 21 回大会印象記

西九州大学 太田秀樹

早いもので第 21 回大会（立命館大学衣笠キャンパス）にて発表させていただいてから約 1 年が経ちました。その際には、原稿送付が非常に遅れてしまい大会会長にご迷惑をおかけいたしました。再度、お詫びいたします。大変申し訳ありませんでした。

さて、当時のことを思い出すと、発表者がわたし一人だけということには驚いてしまいました。一人ということは参加者が全員来るのだ、と思うにつれ、プレッシャーが増してきました。なぜ、京都という場所で発表者がわたしごとき一人なのかと、疑問にも思いました。

しかしながら、次第に考えは変化していき、プレッシャーがかかって不安に思うよりも「目立つ！」とポジティブに捉えるようになっていったのを記憶しています。おかげで、指定討論者は山中康裕先生、廣瀬幸市先生、司会は中島登代子先生に決まってしまう、その結果ポジティブだった心が、再びプレッシャーに襲われることになりました。とは言え、話し出すと会場に来られている皆様に包まれるようで、発表の際は心地よかったことを記憶しています。

以上のような雰囲気を楽しむことができた立命館大学衣笠キャンパスに、わたしはうん十年ぶりに来ることができました。そして昔の大学の雰囲気を少し思い出すことができました。当時、立命館は「暗い」というイメージで有名でしたが、いつの間にか「リッツ」と呼ばれるようになり、イメージが変化し、人気も上がっています。わたしも古くなってきましたが、本学会が持つ臨床力を身に付けながら、変容していきたいと強く思った大会でした。

編集後記

SPACE の 36 号をお届けします。新体制になり、新たに仁里が広報委員会を任されました。これまでなかなか発行が出来ず、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。なお、今回掲載の事業報告は平成 29 年度、事業計画は平成 30 年度のものであり、一昨年のものであります。昨年については次号に掲載の予定ですので、そちらをご覧くださいと思います。

コロナ禍の中ではありますが、これまでこの学会が大切にしてきた人と人との関り、そして人が身体を通して感じるところを、引き続き大切にしていける学会であればと思います。このSPACEの中にも、それを反映していければと願っています。

皆様の積極的な投稿をお待ちしています。

(仁里)

SPACE No. 36
日本臨床心理身体運動学会 会報第 36 号
2020 年 11 月 30 日発行
日本臨床心理身体運動学会
会 長 山中康裕
編集責任 仁里文美
事務局 〒600-8449
京都市下京区新町通松原下ル富永町 107-1
株式会社 木立の文庫内
TEL : 075-585-5277
FAX : 075-320-3664
E-mail : office@rinsinsin.jp